

デマンド交通による過疎地域の高齢者交流支援システムに関する研究

山口大学大学院 学生会員 ○平川 伸
山口大学大学院 正会員 榊原 弘之

1. はじめに 地方都市においては、新たな移動手段確保のために、自治体主導のもと、デマンド交通の導入と利用促進が活発に行われてきた。しかし、認知の進行に伴う利用の伸び悩み、高齢者の自動車運転免許保有率の向上などの要因により近年のデマンド交通の利用率は低迷している。本研究では、宇部市のデマンド交通「ひまわりTAXI」を対象に、高齢者の交流という新たな利用目的の創出を目指す。その上で、それによりもたらされる「デマンド交通の乗車率の向上」と「宇部市二俣瀬地区在住の高齢者の交流促進」の有用性について分析し、デマンド交通の新たな利用促進案の提案を行う。

2 ヒアリングによるデマンド交通分析

2. 1 宇部市デマンド交通「ひまわりTAXI」

ひまわりTAXIとは、高齢化やバスの減便により交通空白地域が増加している宇部市二俣瀬地区において、この交通不便を少しでも打開し、モビリティの向上と地域コミュニティの形成を行うことを目指して、有限会社嘉川タクシーが平成21年10月に運行を開始したデマンド交通である。

2. 2 運行エリアの特徴 山口市の嘉川地区と宇部市の木田地区の2箇所を交通結節点とすることで嘉川方面と木田方面の両利用に対応している。嘉川地区はJR新山口駅方面や阿知須方面への路線バスへの乗換拠点としての役割を果たしている。一方、木田地区は、宇部市中心部方面への路線バスとの乗換拠点として機能している。

2. 3 運行時刻 現在ひまわりTAXIは8:00～17:20にかけて計6便で運行されている。図-1に示すように8:00～9:00の第1便、9:00～10:00の第2便、11:00～12:00の第3便の午前中の3便は特に利用が集中しており、運行の要となっている。一方で15:10～15:50の第5便以降は午前の便ほど利用が集中していない。

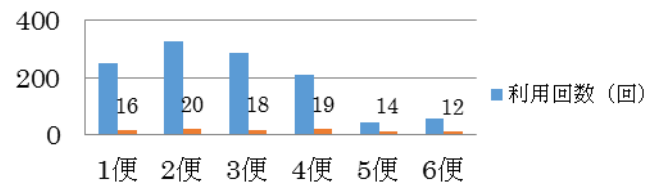


図-1 便別利用回数・利用世帯（H26.10～H27.10）

2. 4 登録状況 平成27年10月1日時点での二俣瀬校区の世帯数688世帯に対し、登録世帯数は約4割の262世帯である。一方、地域でのデマンド交通に対する支持は高いものの、登録世帯層の約9割が1回も利用していない。また、図-2に示すように特定の2世帯のみで1年の総利用回数の約4割を占めていることから、現状のひまわりTAXIは特定個人の利用に大きく依存していると言える。それらの利用者を失った場合、運行維持が困難になりかねない状況にあるといえる。

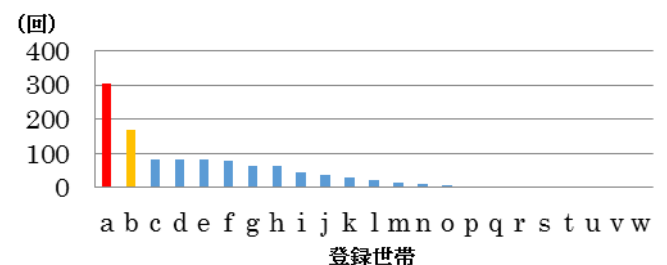


図-2 登録世帯ごとの利用回数（H26.10～H27.10）

2. 5 月別の利用回数と利用世帯数 H26.10～H27.10の月平均利用回数は約90回、月平均利用世帯数は12世帯である。一方、H22.10～H23.10の月平均利用回数は約40回、月平均利用世帯数は10世帯である。この利用世帯数の伸び悩みは、ひまわりTAXIの認知の進行に伴うものと考えられる。

3. 分析結果

①活動方針 高齢者を「交流希望者」とすることで、ボランティアとしてではなくレクリエーションとしての「交流活動」を楽しんでもらい、高齢者同士の繋がりを生み出すことを基本的な方針とする。

キーワード デマンド交通、DRT、高齢者、交流促進、過疎地域、利用促進

連絡先 〒755-0097 宇部市常盤台2丁目16-1 山口大学工学部

TEL 0836-85-9355

②活動目的 デマンド交通を活用した交流活動により地域の高齢者の交流を促進することが目的である。また、それによりデマンド交通登録者の利用頻度を向上させることを目指している。

③活動範囲 交流促進は、ひまわりTAXIの通常運行と両立させるために、ひまわりTAXIの既存の運行エリアをそのまま活動範囲とする。

④活動時間 ひまわりTAXIの通常の運行と併せて行えるようにひまわりTAXIの運行時間をそのまま交流活動での送迎に用いるものとする。

⑤活動内容 主な活動内容は、高齢者の安否確認、相談相手、情報提供・収集などである。ただし、あくまで地域の高齢者同士の交流を促進することが重要であるため、これらの活動は、高齢者同士の交流促進における付随的な活動のひとつとして扱う。

⑥交流希望者 嘉川タクシーにデマンド登録として二俣瀬地区の高齢者のデータが集約されているため、デマンドに登録している高齢者を対象とした交流活動が最も望ましい形式であると思われる。

4. デマンド交通高齢者交流モデル 以上の分析結果を踏まえた上で、2 パターンの利用促進を目的としたデマンド交流サービスの運行モデルを作成した。

4. 1 個人間交流サービス(図-3 左) 二俣瀬の各集落から訪問希望者を募集する。嘉川タクシーが訪問希望者の要望に応じて、訪問先、訪問日、訪問時間を決定する。指定日に訪問希望者が交流希望者の自宅にひまわりTAXIで向かい、交流を楽しみつつ、安否確認、相談相手、情報提供などを行う。交流希望者の訪問先は一定期間ごとに変更を行い、多数の高齢者同士で親交を深めることのできる環境を作る。これにより、お互いがお互いを自然に見守れるような高齢者交流ネットワークを構築する。

4. 2 地区・地域間交流サービス(図-3 右) 二俣瀬の各集落から交流希望者を募集する。嘉川タクシーが交流希望者の要望に応じて、交流場所や、訪問日、訪問時間を決定する。指定日当日は、ひまわりTAXIで交流希望者を迎えに行き、そのまま交流場所へと向かう。そこで趣味に関する交流活動を行い、地域同士の高齢者の交流を深めることで、地域間の高齢者同士の繋がりを強め、地域単位でのコミュニティの相互扶助機能を向上させる。

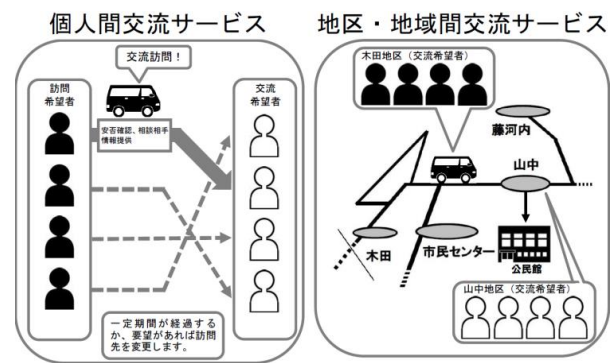


図-3 交流サービス（個人間、地区・地域間）

4. 3 デマンド交通高齢者交流モデル 交流拠点に集まった高齢者のコミュニケーションの場づくりを行うことも必要である。高齢者は性別、年齢、趣味が異なる場合が殆どなので、それに見合った交流の場づくりをしなければならない。本研究では既往研究で報告されているコミュニティ・レストランを参考として、「お食事サロン」を高齢者の交流促進手法に用いるものとした。会場としては二俣瀬地区各所に点在する公民館などを利用した。地域間交流サービスでのお食事サロンで高齢者同士の交流を深めることで共通の趣味を見つけ、そこから個人間交流サービスに繋げていくことを目指す(図-4)。

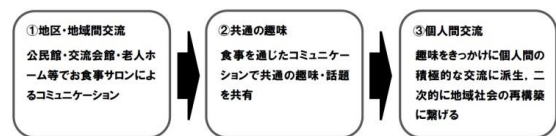


図-4 お食事サロンによる高齢者交流促進

5. おわりに 本研究では、デマンド交通を用いた高齢者の交流促進の有用性と、それに伴うデマンドタクシーの乗車率向上に関する分析を行った。本研究で提案したデマンド交通を用いた高齢者交流サービスの導入の是非は、本サービスを利用する交高齢者の意見に大きく左右されるため、高齢者の本サービスへの参加意欲、高齢者の他者と交流への意欲をいかに把握していくかが今後の重要な課題である。

謝辞 ヒアリング調査に御協力頂いた、有限会社嘉川タクシーの後藤聖治社長に感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 片山めぐみ：高齢者と地域とを結び付ける「縁側サービス」の効果 福祉系 NPO 法人によるコミュニティ・レストランを事例として、(2012)。
- 2) 中條暁仁：過疎山村における高齢者を支える「つながり」の維持と創出 浜松市佐久間町を事例として、(2014)。